

ふるさと歴史アラカルト

この碑 なんの碑 きになる碑

市内を歩いてみると、いろいろな所で石碑を目にすることがあります。普段は何気なく通り過ぎてしまいがちですが、近づいて見てみると多くの文字が刻まれており、その土地にゆかりのある人物の功績をたたえたものや、その土地で起こったことを伝えるためのものがあることが分かります。今回は市内の石碑の中から周東町下久原にある「贈正五位世木君之碑」を紹介します。この石碑は奇兵隊士だった世木騎六の功績を記したもので、内容を要約すると次のように書かれてあります。

世木君は下久原村(岩国市周東町)の長州藩士の家に生まれました。幼名は重三郎で、後に騎六と改めました。文久3(1863)年、奇兵隊に入り、高杉晋作に才能を認められて偵察の任務を与えられ、この年に始まった下関での外国艦隊との戦い(下関戦争)で活躍しました。

元治元(1864)年、長州藩内で内乱が起ると、山縣有朋の部下として選鋒隊(長州藩士の部隊)と戦い、慶応

元(1865)年1月10日、大田(美祢市)で戦死しました。26歳でした。明治21(1888)年、靖国神社に合祀され、明治35年には正五位を追贈されました。この石碑は大正6(1917)年、世木君の功績をあらわすために有志によって建てられたものです。

元治元年の内乱は、第一次長州征討の際、長州藩内で江戸幕府に恭順する保守派が実権を握り、改革派と対立したことから起こったものです。この内乱で改革派が勝利したことにより、長州藩は方針を転換し、後の第二次長州征討(四境戦争)の勝利、そして明治維新へと進んでいきました。その点からこの内乱は歴史上、重要な契機だったと考えられ、石碑はそこで命を落とした世木の功績を後世に伝える目的があったことが分かります。

このように各地に残る石碑は、地域の人や歴史を知ることのできる貴重な情報源の一つであることが分かります。皆さんも近所に残る石碑を探歩に出掛けてみてはいかがでしょうか。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



贈正五位世木君之碑(岩国市周東町)



世木騎六の奇兵隊時代の袖印(個人蔵・岩国徴古館寄託)

岩国市 人口・世帯

人口 133,815人【前月比 -130人】 男性 63,546人 女性 70,269人

世帯 65,669世帯【前月比 -39世帯】 ※外国人人口を含む(2019年10月1日現在)

交通事故発生件数

9月分事故件数 25件(202件) 死者数 0人(5人) 傷者数 26人(227人)

※高速道路発生分を除く。()内は2019年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337